

# 平成 29 年度「ことばの輝き」優秀作品コンクール実施要項 (小学校・義務教育学校 (前期課程))

## 1 趣旨

児童が日常の学習活動の中で作成した作文，論文，読書感想文，レポート等を募集し，優秀な作品を表彰するとともに優秀作品を広く紹介することにより，各小学校における「ことばの教育」を推進する。

## 2 主催

広島県教育委員会

## 3 実施内容

### (1) 対象

県内の小学校・義務教育学校 (前期課程) の児童

### (2) 募集する作品

作品は，次の 3 部門について募集するものとし，テーマ，様式，枚数等については，特に制限は設けないこととする。

なお，作品は未発表のものであり，今後他のコンクールに応募しないものに限る。



部 門	内 容
I 論理的に表現する力	説明文，記録文，報告文，意見文 等
II 豊かに表現する力	生活文，体験作文 等
III 本を読んで考え，表現する力	読書感想文 ※ 文末に書籍名，著者名，出版社名を記載すること。

### (3) 応募方法

ア 市町立学校は，応募作品を別紙様式 1-① (「ことばの輝き」優秀作品コンクール推薦書) 及び 2-① (「ことばの輝き」優秀作品コンクール参加作品数集約表) とともに市町教育委員会に推薦すること。市町教育委員会は，選考委員会等により審査を行った上で教育事務所等に推薦すること。

イ 国立学校は，広島大学理事 (教育担当) を通して県教育委員会に推薦すること。

ウ 私立学校は，環境県民局学事課を通して県教育委員会に推薦すること。

エ 各学校が推薦できる作品数は，上記 (2) の 3 部門について，各学年それぞれ 3 編以内 とする。なお，推薦作品は校内選考会等により審査を行った上で推薦すること。

### (4) 提出締切

市町立学校 平成 29 年 9 月 11 日 (月) までに市町教育委員会へ提出

私立学校 平成 29 年 10 月 6 日 (金) までに環境県民局学事課へ提出

国立学校 平成 29 年 10 月 6 日 (金) までに広島大学理事 (教育担当) へ提出

## 4 審査及び表彰

### (1) 審査方法

県教育委員会事務局内に「ことばの輝き」優秀作品コンクール審査会 (以下「審査会」という。) を設置し，審査を行う。審査会の構成については，別に定めるものとする。

### (2) 審査基準

審査は，次の審査基準に基づいて行うものとする。



知ろう! 語ろう! 楽しもう! 言葉は皆の宝物

低学年	① 経験したことなどについて、自分なりに考え、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して書いている。 ② 素直に表現している。 ③ 想像豊かに読み、感じたり考えたりしたことを表現している。
中学年	① 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、その過程や結果、段落相互の関係などを工夫して書いている。 ② 適切に表現している。 ③ 本を読んで、自分の経験や考えと結び付けて、感じたり考えたりしたことを表現している。
高学年	① 様々な材料を基にして、自分の考えたことなどを目的や意図に応じ、筋道を立てて書いている。 ② 適切かつ効果的に表現している。 ③ 本を読んで、自分の生き方などについて、感じたり考えたりしたことを表現している。

### (3) 表彰

県教育委員会は、審査会の審査に基づき、上記3(2)の3部門の学年ごとに最優秀賞1編、優秀賞2編程度を表彰する。

### (4) 表彰式の実施

県教育委員会は、受賞児童の表彰式を平成30年1月30日(火)に予定している。なお、表彰式の様子は広島県教育委員会ホームページ「ホットラインひろしま」に掲載する。

## 5 優秀作品

最優秀賞受賞作品については、受賞作品等を、優秀賞受賞作品については、受賞者名等を、広島県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」に掲載する。

※表彰式の様子や受賞者名等のホームページ掲載に不都合がある場合は、審査結果通知時に速やかに御連絡ください。連絡のない場合は、掲載の了承を得たものと判断します。

## 6 その他

- (1) 応募作品は返却せず、作品の著作権は広島県教育委員会へ帰属する。
- (2) 参考や引用(写真等も含む)がある場合は、出典を明記すること。

<p><b>指導者のことば</b></p> <p>本作品は、書き手である児童が、自分を育ててくれた蒲刈の町を盛り上げるためにできることを考え実践する中で、ふるさとへの思いを熱くしていく様子を書いたものです。書き手の思いが、淡々とした中にも心地よい文章として表現されています。</p> <p>一点目は、「B書くこと」と「C読むこと」の領域を関連付けた指導を行ったことです。児童は、まず、教材文「サボテンの花」(やなせたかし作)を読んで、「C読むこと」、心に響く作品とするための表現の工夫、例えば余韻のある終わり方や話の展開等について学習しました。その後、単元「ずい筆を書こう」(B書くこと)で、前単元で学習した内容を活用しながら本作品を書きました。(略)</p>	<p style="text-align: right;"><b>部門 I</b></p> <p style="text-align: center;"><b>蒲刈の町を元気に</b></p> <p>「今度、蒲刈に行ってみるね。」 野球観戦にマツダ球場を訪れていた人から、声をかけてもらった。うれしくなって、「はい、ぜひ、遊びに来てください。」と笑顔で答えた。四月、マツダ球場で、ぼくが住んでいる蒲刈をしようかいするカードを配った時のことだ。</p> <p>去年、ぼくたちは、総合的な学習の時間に『蒲刈の町をもっと元気に!』という学習をした。学習の始まりは、こんなことだった。蒲刈町は、年々人口が減少し、少子高れい化が進んでいる。そんな中、蒲刈の人たちはなんとか町を活性化しようががんばっている。ぼくたちもできることを考え、まちを元気にする手伝いをしていこう、ということだ。(略)</p>	<p>平成二十八年 最優秀作品(一部掲載)</p>
--	--	---------------------------

※ 平成28年度最優秀作品及び指導者のことばは、広島県教育委員会ホームページで閲覧することができます。(http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kotoba/h28-kotoba-kagayaki.html)